



## 読書、山、海、そしてマラリア

感染細胞修飾機構分野（原虫学）

教授 金子 修

この度、平成 19 年 5 月 1 日付けをもちまして熱研・感染細胞修飾機構分野(病原原虫学)教授を拝命しました。誌面をお借りし熱研同門会の諸先生方にご挨拶申し上げます。長崎医学同窓会誌「朋百」に、大阪市立大学でマラリアに出会い、熱研に着任するまでの経緯を簡単に紹介させていただきましたので、この誌面では、趣味について紹介させていただきます。

【読書】読書というよりも活字中毒です。小学 5 年生のときに、エドガー・バロウズの SF 小説「火星」シリーズに出合って以来、海外 SF、ファンタジー、ゴシック、ホラーを中心に、だいたい年間 100 冊程度読みます。好みの作家はロジャー・ゼラズニイやジョージ・マーティン、スティーヴン・キング。ファンタジーから領域を拡張し、神話・伝説・伝承文学にも興味があります。米国留学中には活字に飢えたあまり原書で SF を読み始め、かなり英語の上達に役立ったと感じています。

【山】中学は野外活動部、高校はワン

ダーフォーゲル部、大学では 2 年間サッカー(医学部系)をした後、「山行会」という全学体育会系サークルに所属しました。厳冬期末登攀ルートに登るといったレベルではありませんが、正月の五竜岳、ゴールデンウィークの剣岳、北岳バットレス等といった所を登りました。海外はマッターホルン(4478 m、スイス)、キリマンジャロ(5896 m、タンザニア)、ピコ・デ・オリサバ(5747 m、メキシコ)、モンブラン(4807 m、フランス)に登頂しました。オリサバは予定日に頂上にたどり着けず一度ベース・キャンプに戻り、2 日目に再トライをして登頂しましたが、社会人になってからの海外登山だったため、体力不足と高度順化不足で 2 日目の朝はワイン色の血尿が出ていた危険な登山でした。登山に消極的になってしまった出来事です。その後、米国留学中にモンブランに登りに行きましたが、体力絶頂期の山行と比べて、スピードもパワーも格段に落ちていることをさらに痛感し、ますます雪山に対する意欲が減退してしまい現在に至り

ます。

【海】大学院時代から主な趣味が山からスキューバダイビングに変わりました。実験の後、土曜日の夜 10 時頃に大阪を出発し、車で飛ばして 3 時間半で本州の最南端串本町に到着し、日曜日 2 - 3 本潜って帰ってくる週末ダイブと夏・冬・ゴールデンウィークの遠征ダイブ旅行とで年間 60 本ぐらいのペースで潜っていました。水中写真も撮り始め、魚の名前にはやたらと詳しくなりました。留学中もポスドク仲間といっしょに、北はニューヨーク沖から南はキーウエストまで米国東海岸沿いの沈船やカリブ海を潜りました。しかし、2000 年に愛媛大学に就職してからは気のあった新しいダイビング友達も出来ず、自然に活動が低調になってしまいました。

一方、長崎に来てから 7 月下旬に野母崎で、8 月に下五島でスピアフィッシングをしました。今までずっと写真を撮っていただけの魚たちを突いて食べるのは新鮮な経験で、ハマッてしま

いそうです。魚のさばき方、料理の仕方も勉強しなければなりません、料理も実験も要領は同じですから問題ないでしょう。長崎に来てよかった・・・。

【マラリア】これが実益を兼ねた究極の趣味でしょうか。大学時代から現在に至るまで真剣に一番ハマっているものです。一時期、「金子は食事中もマラリアの話しかしない」と言われました。何故、こんなにマラリアは面白いのでしょうか。複雑な形態と生活環、世界的に重篤な問題であること、歴史上でも時々言及されるといった空間的にも時間的にも奥行きのある背景があるからでしょうか。説明不可能です。マラリアに飽きる日はやって来るのでしょうか？十数年後のいつの日にか尋ねてください。

これからも、読書、山、海に劣らず、情熱を持ってマラリア研究を推進し、熱研の発展のために努力をする心積もりです。先生方にはご指導ご鞭撻を願ひし、ご挨拶とさせていただきます。